

平成27年度第2回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成27年10月14日（水）17：30～19：30

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、松浦委員、高田委員、斎藤アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

構想力を培う学びの仕方を修得する初年次教育プログラムの15回の授業イメージ（カリキュラム）及び2・3年次に向けたイノベーション PBL 体験プログラムでの情報専門教育として主体的な学びをつくる授業の仕組みについて委員からの提案を中心に以下のような説明や意見があった。

- ・ 構想力、問題発見、問題解決には、答えのない問題を発見し、その原因を追及して最適な解を求めるための専門知識の獲得や汎用的な能力の育成により、技術・技能の獲得が求められる。
- ・ 例えば、企業の取組みは、戦略上で重要と考えるゴールを目的に想定し、到達または近づけるために計画してヒト・モノ・カネ・情報を投入している。また、ゴールへのプロセスとして、問題発生を事前に防ぐ、発生した問題を解決する組織的活動と通じてイノベーションを起こしているのではないか。
- ・ PDCA の考え方は、議論などを通じて要求が生まれ、要求に対して計画を立て、5W1H を明確にする。Plan の段階で Action から改善策を取り入れ要求を見直す。Plan に沿って Do で情報収集しながら行動を見直す。Check で情報の分析評価を通じて改善点を検討し、Action で改善策により Do または Plan に戻し改善改良を進める。
- ・ 学位を構成する力のどれに該当するのか、初年次教育でどこどの部分まで担保して、2，3年生でどのように伸ばしていくのかを描く必要があるのではないか。
- ・ 初年次カリキュラムでは、1年後期の15週と考え、Plan の修得に5人のチームでPBL（能動的学修）を軸として、組織活動の方法、意志疎通、知的活動を引き出す技法、PDCA について学ぶ。15回の中で、4回は講義主体で、以降はPBL・発表を想定した。
- ・ PBL では、要求をつくることとして、チームで製品の特徴、サービス、ビジネスモデルについて要望書を作成する。要望書はチーム間で意見交換し、回答書から修正して実現方法などを5W1H として発表する。問題点の分析・課題抽出し、解決策を検討し前回の反省結果として発表し評価を受ける。
- ・ チームの素晴らしさを理解させるために、例えば、1回目の授業で後半から教員がテーマを出して考えさせ、答えをチームで持ちよる演習を組み込んではどうか。
- ・ チームについては、分野（土俵）の違うチーム間での意見交換を取り入れてはどうか。
- ・ チーム中での役割分担については、一人ひとりの役割の重要性を気付かせる程度で、上級学年で役割を設定することで、初年次では明確にしない方が良いのではないか。
- ・ どのような能力を身に付けさせるのか明示する必要がある、どのレベルまでの力をつけさせるかをイメージさせる必要がある。例えば、授業の最初の段階は、多様性を持たせるため集団で意見を出し合いまとめていく力など。また、多面的にものごとを捉える力、観察力、ものをみる力、協働の中でのものごとを考える力、他者の意見を聞いて判断する力、合理的な判断力など。
- ・ 15回授業の中で PBL の演習部分を2回行ってはどうか。1回目で失敗を体験させ、振り返りをさ

せることも重要ではないか。または、何回も繰り返しているということを仕切りの表現などでイメージできないか。

- ・ 要望書形式は、例えば、製品に対してどのような問題があるのかなどの問題整理という表現ではどうか。
- ・ 構想の目的の一つは、製品をどのようなことに使えるのかなどで、長所・短所含めた特徴を通じてその世界観を広げていくこと。例えば、IoTはセンサーのみでは意味がなく価値を見出し、構想力が求められる。
- ・ 製品を提示し利害得失をチームで意見を出し合い共有する。どのようなサービスを生み出すことが出来るのか、ビジネスとして考えてみることだが、ビジネスモデルについては、2，3年での教育にしてはどうか。
- ・ 情報を活用してイメージーションさせるために、Net検索以外にヒアリングやインタビューなどICTも活用して自分たちで調べさせる必要がある。
- ・ 初年次では、学生の発表に対してレビュー時間を十分に設定することで、多様な立場の意見から学生に気づきを与えられ、振り返りを通じて発表内容にどのような価値があるのかを見出すことができれば良いのではないか。
- ・ 2，3年生では、合理的な思考力の育成が求められるのではないか。問題の解決には自大学で教えていない技術などが必要で、自分たちで必要な技術・知識・考え方などを勉強しにいくイメージが考えられる。（ここでは授業シナリオではなくカリキュラムを想定された）
- ・ 大学を超えて知識の獲得、実践力を磨くことでは連携が必要になる。その際、自分の学んだ専門技術を構想の一部に利用し合って実現できるような体感ができるテーマ設定ができないか。他学問・他大学の専攻違いから一部でも情報交換による融合の経験ができないか。
- ・ 授業（カリキュラム）モデルのパターンを情報通信系とデザイン・コンテンツ系で考えてみてはどうか。それぞれで課題の出し方を検討してはどうか。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は、12月11日（金）17時30分から開催することにした。
- ・ 初年次及び2・3年次での教育プログラムについて情報通信系とデザイン・コンテンツ系の案を持ち寄り検討することになっている。